

# 公開実用 昭和63- 91201

⑮ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-91201

⑤ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑨ 公開 昭和63年(1988)6月13日

A 45 D 2/48

7618-3B

審査請求 有 (全 頁)

⑭ 考案の名称 電気まつ毛カール器

⑪ 実 願 昭61-185008

⑫ 出 願 昭61(1986)12月2日

⑬ 考 案 者	橋 田	直 樹	埼玉県所沢市中新井5丁目24番3号
⑬ 考 案 者	宮 田	太 一 郎	東京都荒川区荒川2丁目19番2号
⑬ 出 願 人	橋 田	直 樹	埼玉県所沢市中新井5丁目24番3号

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

電気まつ毛カール器

### 2. 実用新案登録請求の範囲

1. 上部支持片と下部支持片にそれぞれ固設された湾曲した上部挟持片と下部挟持片とによって上下方向からまつ毛を屈曲して挟持すると共に電源リスイッチを経て上記上部または下部挟持片に装着された発熱体に通電して、まつ毛に熱を加えて癖付けする電気まつ毛カール器において、

発熱体に複数個の脚部を成形した抵抗板を使用し、その脚部により該発熱体を上記上部または下部挟持片との間に空間部を形成して該挟持片に一体に装着したことを特徴とする電気まつ毛カール器。

2. 抵抗板をまつ毛挟持面が略U字状になるように形成した実用新案登録請求の範囲第1項記載の電気まつ毛カール器。

3. 電源とスイッチおよび発熱体の間を電氣的につなぐ導電部材の一部またはすべてが抵抗体であ

る実用新案登録請求の範囲第1項または第2項記載の電気まつ毛カール器。

### 3. 考案の詳細な説明

#### 【産業上の利用分野】

本考案は、まつ毛に癖付けをする電気まつ毛カール器に関するものである。

#### 【従来の技術】

従来の電気まつ毛カール器では、第8図に示すように電熱線1を耐熱性の絶縁材2で絶縁して、まつ毛3を屈曲させるための成形板4に添着し、この成形板4を加熱している。また、まぶた5に接する接眼板6を設け、これと成形板4との間には断熱部材7および空間8を必要とする。

このまつ毛カール器によってまつ毛3にカールを付けるには、接眼板6をまぶた5に当てると共に、熱くなった成形板4をまつ毛3に当て下部挟持片9とでまつ毛3を挟み屈曲させる。

#### 【考案が解決しようとする問題点】

しかしながら、このような従来の電気まつ毛カール器では、電熱線1からの熱を絶縁材2と成形

板 4 を経て間接的にまつ毛 3 に伝えるため、成形板 4 の先端がまつ毛 3 をカールするための適温になるまでに時間を要するうえ、いつ適温になったのかわからず熱くなりすぎてしまう。

このようなときは、まぶたに当てる接眼板 6 まです熱くなり、まぶた 5 をやけどしてしまい非常に危険である。成形板 4 と接眼板 6 の空間 8 を広くすればやけどはしないが、まぶた 5 と成形板 4 とがさらに離れてしまい、まつげ 3 の先端の方にしかカールを付けることができなくなる。

実際にまつげをカールするための時間は 1 ～ 2 秒であるのに対し、適温になるまでの予熱時間はその数倍から十数倍もかかり、特に電源として電池を使うものにあっては電気の消耗が多く不経済である。また、余熱があるためすぐに収納できない。

さらに、絶縁材や断熱部材をつかったり、高温になることを考慮して他の使用部材も耐熱性を持たせたり、各所に断熱材を使用せねばならず構造も複雑である。

この考案は、これらの問題点を解決するためになされたもので、カールしたいときにやけどをする心配もなく安全に早くカールが付けられて、更に予熱のための電気の消耗のない、経済的で構造が簡単で安価な電気まつ毛カール器を提供することを目的とする。

【問題を解決するための手段】

そのため、この考案による電気まつ毛カール器は、発熱体に複数個の脚部を形成した抵抗板を使用し、この抵抗板の脚部により発熱体を合成樹脂等の絶縁材よりなる挟持片のまつ毛を挟持する面の厚さ方向の中央寄りに、発熱体と挟持部との間に空間部を形成するように装着すると共に、この発熱体を発熱させるための電源とその通電を制御するためのスイッチとを設けたものである。

【実施例】

以下、この考案の実施例を第1図乃至第7図によって説明する。

第1図乃至第5図は、この考案の一実施例の斜視図、側面図、下面図、第3図のA-A断面図、

および第4図の要部拡大図である。

この実施例の電気まつ毛カール器は、まぶた5の曲面に合うように湾曲した上部挟持片10とこれに対向して同様に湾曲した下部挟持片11を、それぞれ基部12より延出したたわみ性のある上部支持片13と下部支持片14の先端部に凹曲面を外側に向けて一体に形成されている。

そして、この基部12は電池15を収納する電池ケース16となっている。下部支持片14には挟持部17側より基部12方向にスイッチ操作片18が延出されていて、これによりまつ毛3を屈曲挟持したのちにスイッチ19をオンするようになっている。

凸面挟持部20には発熱体21が、第5図に明示するように発熱体21に形成されている脚部22によって凸面挟持部20との間に空間部23を形成するように一体に装着されている。

凸面挟持部20に対向してまつ毛3を挟む凹面挟持部24にはゴム25が取り付けられている。

電池15とスイッチ19および発熱体21は第

6図のように接続されていて、それらをつなぐ導電部材26に抵抗体を使用している。発熱体21の温度やカールに要する時間は、発熱体21や導電部材26の抵抗値を適宜変更することにより、電圧調整器等を使用しなくても調整ができる。

次に、この電気まつ毛カール器の操作に付いて説明する。

上部支持片13とスイッチ操作片18を手の指で上下方向から挟むように持ち、上部挟持片10をまぶた5に当てながら下部挟持片11とでまつ毛3を挟んで屈曲させる。このときスイッチ19もオンとなり、発熱体21が通電されて発熱し、まつ毛3が加熱される。

発熱体21は板状であるので瞬時に発熱すると共に、凸面挟持部20とわずかに接しているだけなので伝導による熱の逃げが少なく、有効に直接まつ毛3を加熱するためカール付けに要する時間は1秒ほどでよい。この後挟持部17を開いてまつ毛3からカール器をはずすと、まつ毛3にカール付けがなされている。

また、第 7 図は発熱部の他の実施例であって、  
(イ) はまつ毛挟持面を略 U 字状に成形した発熱体 21' の脚部 22' を凸面挟持部 20 に一体に装着したものである。(ロ) は挟持面を略 U 字状に成形した発熱体 21'' の両脚部 22'' を外側に折曲げて凹面挟持部 24 に一体に装着したものである。

#### 【考案の効果】

以上説明してきたように、この考案による電気まつ毛カール器は、発熱体に板状の抵抗体を使用し、そのうえ直接まつ毛を加熱するので余熱時間が不要となり、更に加熱が早く行われるためカール付けがごくわずかな時間でできる。このため電池の消耗も少なく経済的であり、さらに挟持部の温度の上がり過ぎによるやけどの心配もない。

接眼板 6 や断熱部材が不要となり、必然的に接眼板 6 と断熱材 2 との空間が不用なるため構造が簡単になり、挟持部を薄くできるのでまつ毛の根元近くからカールすることができる。

#### 4. 図面の簡単な説明





第1図乃至第3図はこの考案の一実施例を示す斜視図，側面図，及び底面図、第4図は第3図のA-A線に沿う使用状態の断面図、第5図（イ）（ロ）は第4図の要部の正面と断面の拡大図、第6図はこの考案を実施するための電気回路の一例を示す回路図、第7図（イ）は発熱体を凸面挟持部に取り付けた他の実施例（ロ）は発熱体を凹面挟持部に取り付けた場合の実施例を示す断面図、第8図は従来のまつ毛カール器の挟持部の拡大断面図である。

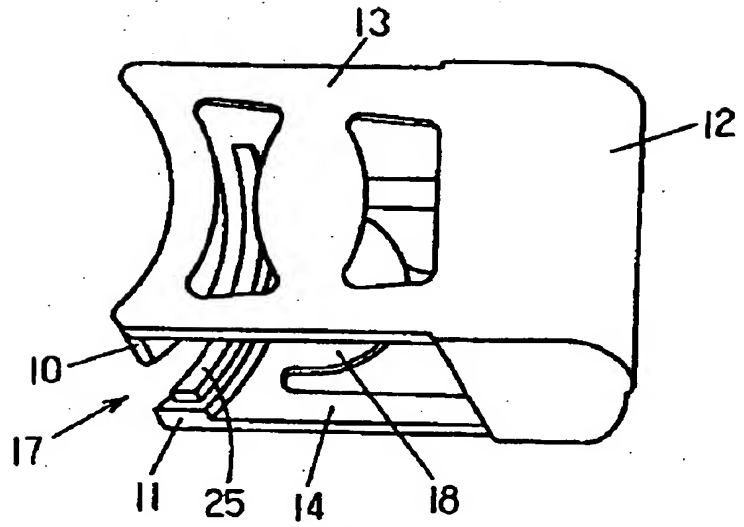
10…上部挟持片、11…下部挟持片、13…上部支持片、14…下部支持片、15…電池、17…挟持部、18…スイッチ操作片、19…スイッチ、20…凸面挟持部、21，21'，21''…発熱体、22，22'，22''…脚部、23，23'，23''…空間部、24…凹面挟持部、25…ゴム、26…導電部材。

実用新案登録出願人

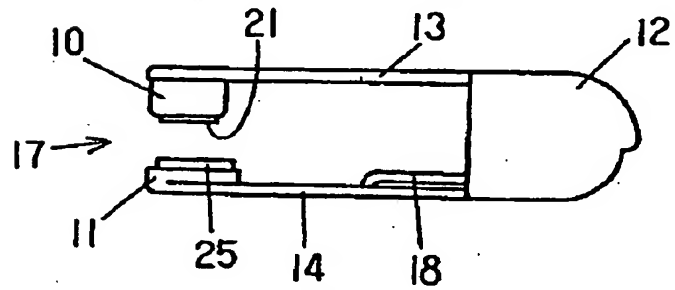
橋田直樹



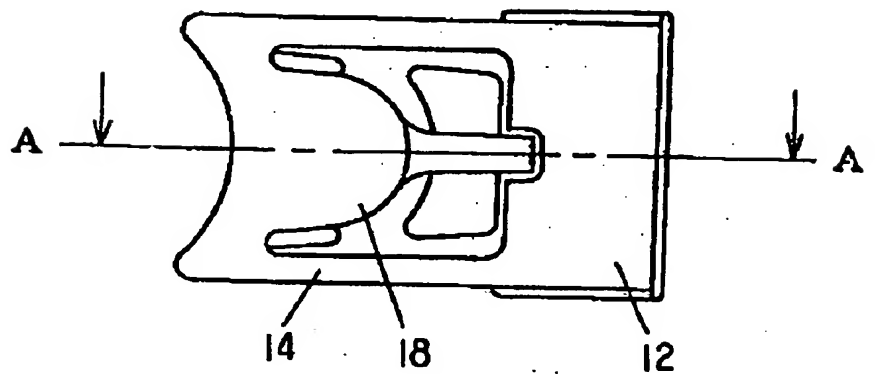
第 1 図



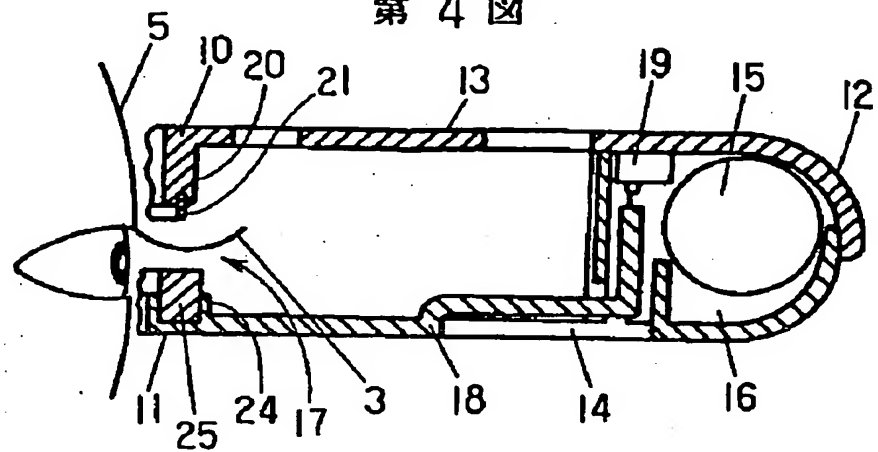
第 2 図



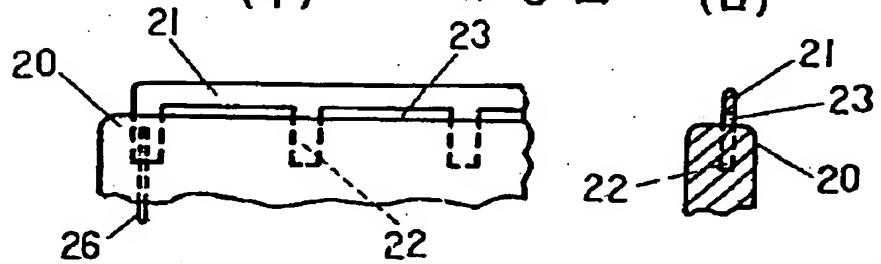
第 3 図



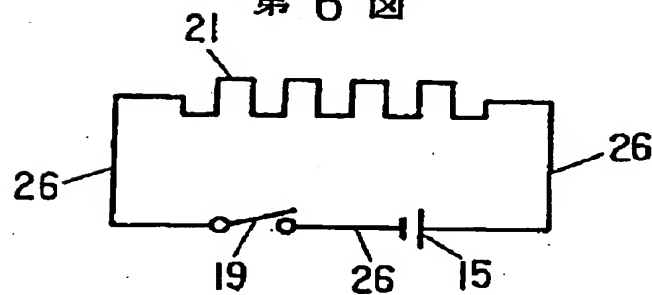
第 4 図



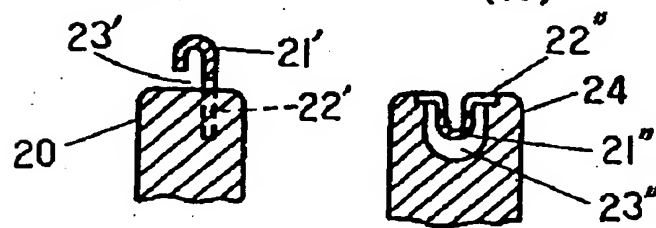
(イ) 第 5 図 (ロ)



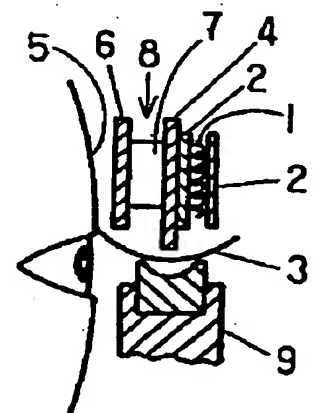
第 6 図



(イ) 第 7 図 (ロ)



第 8 図



手続補正書(自発)

昭和62年5月26日

特許庁長官 黒田明雄 殿

1. 事件の表示

実願昭61-185008号

2. 考案の名称

電気まつ毛カール器

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

埼玉県所沢市中新井5丁目24番3号

橋田直樹



4. 補正の対象

明細書の実用新案登録請求の範囲の欄

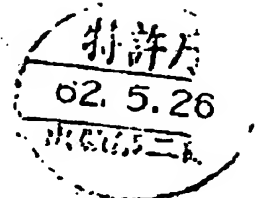
5. 補正の内容

明細書の実用新案登録請求の範囲を別紙のとおり  
補正する。

実開63-91201

万式  
番査

11



実用新案登録請求の範囲

1. 上部支持片と下部支持片にそれぞれ固設された湾曲した上部挟持片と下部挟持片とによって上下方向からまつ毛を屈曲して挟持すると共に電源よりスイッチを経て上記上部または下部挟持片に装着された発熱体に通電して、まつ毛に熱を加えて癖付けする電気まつ毛カール器において、

発熱体に複数個の脚部を成形した抵抗板を使用し、その脚部により該発熱体を上記上部または下部挟持片との間に空間部を形成して該挟持片に一体に装着したことを特徴とする電気まつ毛カール器。

2. 抵抗板をまつ毛挟持面が略U字状になるように形成した実用新案登録請求の範囲第1項記載の電気まつ毛カール器。

3. 電源とスイッチおよび発熱体の間を電氣的につなぐ導電部材の一部またはすべてが抵抗体である実用新案登録請求の範囲第1項または第2項記載の電気まつ毛カール器。